

01

まちづくりの実践

発表者：青木 愉太（生命環境学部地域社会システム学科2年）、上田 明穂・岡村 純佳・小川 絢子・菅原 梨菜・中村 遥香・細田 花実（同学科3年）、小泉 祐翔・吉澤 司・岩澤 詩恵莉・上田 エレン ヒカル（同学科4年）、齊藤 梨央・森 菜月（同学部食物科学科4年）、田村 駿（工学部コンピュータ理工学科4年）、細田 将希（教育学部科学教育コース4年）

担当教員：大山 勲（生命環境学域：地域計画学、景観・観光・防災まちづくり、景観デザイン）

学年は2022年4月現在

プロジェクトの概要

テーマ：地域資源を発掘しそれを活かす地域活性化を実践する

活動：【資源発見と課題抽出】現地調査
 【課題解決の現場と哲学を体得】先進地視察
 【検討】資源を活かし課題を解決する企画案を検討
 【実践】対象地を決定し、地域の方と企画案を実行
 【成果発表と交流】地域への還元・先進地との交流

- ◎【地域のためになることを考える】地域の持続的な活性化を考える
- ◎【まちづくり】主役は地域。学生のみでの企画や実行はしない。地域の方々（住民、行政、企業）と一緒に考え、地域の方々と一緒に実践する（=企画に留まらず実践する。）
- ◎【人づくり】先進地視察ではその風景の背景を考える

2021年度の対象地と活動

身延町と甲斐市の2地域で活動しました。参加人数27人（2021年度から新たに活動9人、前年度から継続12人、OB参加6人）。OB以外の21人中、2021年度末で単位取得要件を満たす活動ができた者は11人でした。

身延山門内地区まちづくり(観光・商業活性化を考える) 資源発掘・動画の作成と発信

身延山地区は「聖域であり、信者さんを大切にしてきた場所。信者さんが年々減少し一般の観光客が増えてきているが、俗的な観光地化はしたくない、聖域と本物性を大事にした持続的な地域づくりをしたい」と考えています。2021年度は県・町・身延山・地元（観光協会・商店会）の話合いの場に参加させていただき、学生が貢献できそうなこととして商店街を知ってもらった動画作成に取り組みました。



甲斐市公園計画のための市民・行政協働ワークショップ スタッフとして体験



その他の活動

11/6・7・13・14・20・27、4/2 ワイツーリズムやまなしへの参加（スタッフとして体験）

2022年度の活動

本プロジェクトは「地域住民や行政の方々との関わり」「地域の現場に足を運ぶ調査」「先進地視察とそこでの人の関わり」「イベント等の実践」を重視して進めています。COVID-19下ではこのような人との関わりや視察旅行やイベント開催は厳しい状況です。今年度は活動地域および活動内容がまだ確定していません。状況が悪化した場合は活動が思うようにできない可能性があります。複数年の活動になることも想定されます。もし状況が好転した場合には活動を拡大していきたいと思っております→下の COVID-19以前の過去の活動を参考にして下さい。

過去の活動・対象地(例)

フットパス・自転車観光・縁側カフェ（富士河口湖・甲州・南ア）



ワークショップ（昭和など）



子どもの遊びからの郷土教育（市川三郷、南ア、北杜）



古民家リノベーション（北杜）



過去の先進地視察(例)

- 景観&観光まちづくり：草津温泉、松本、忍野小樽、小値賀島、栃木、三島、鎌倉、滋賀針江別府、金沢、富岡、富士吉田、川越、伊勢志摩
- 伝統的町並保全：海野、奈良井、京都、伊根、竹富島、内子、知覧、函館、金沢、木曾、飛騨
- マルシェや食：甲州、山梨、笛吹、酒田、青森
- フットパス・まちあるき：北九州市立大学、佐賀大学、町田、長崎、熊本美里、勝沼

